

膀胱尿管逆流（vesicoureteral reflux : VUR）

尿路感染症に関わる先天性腎尿路異常の中で大切なものに膀胱尿管逆流（vesicoureteral reflux : VUR）があります。上部尿路感染症を発症した児の半数近くに認めると言われます。

腎臓からの尿の通り道である尿管は、膀胱に入る前に筋肉の壁に沿って斜めに走行して、排尿するときに尿が膀胱から逆流しない仕組みになっています。

しかし、この逆流防止の働きが未熟であったり、先天的な異常のために上手く働かず、尿が膀胱から腎臓に向かって逆流してしまう現象のことを言います。

その程度は様々で、国際的には5段階に分類されています。腹部超音波検査、排尿時膀胱尿道造影検査、DMSA 腎シンチグラムなどの画像検査が診断に使用されます。現在のところ逆流の有無や程度の診断のためには、排尿時膀胱尿道造影検査が一般的です。

逆流があったとしても、小さいお子さんで程度が軽い場合には、成長に伴って自然に逆流しなくなる場合が多いです。しかし、逆流の程度が強い場合や、成長するまでに何回も尿路感染を反復してしまう場合には、腎臓に悪影響を与えてしまい、高血圧や腎機能低下の原因となる場合があるため注意が必要です。

治療としては、経過観察のほか、膀胱鏡という細い内視鏡(尿道（オシッコの出口）から入れるカメラ)を用いて逆流部位に薬を注入する治療法、手術を行って逆流を止める治療法があります。それぞれの治療法に良い点と悪い点がありますので、主治医の先生と相談しましょう。

VUR 分類（日本小児泌尿器科学会「小児膀胱尿管逆流（VUR）診療手引き 2016」より引用）

Grade I : 逆流は尿管内に限局する

Grade II : 腎盂腎杯内まで逆流するが、拡張なし

Grade III : 尿管、腎盂・腎杯が軽度～中等度拡張し、腎杯は軽度鈍化を認める

Grade IV : 尿管、腎盂・腎杯が中等度拡張し、尿管は中等度蛇行を認める

Grade V : 尿管、腎盂・腎杯が高度拡張し、尿管は高度蛇行・屈曲を認める

